



環境をテーマにした
推理小説を著した

なかむら
中村 敦夫さん

の焼却灰が埋め立てられ
るごみ処分場だった。
て、環境問題の解決を最
優先課題に訴えた。しか
し04年の参院選では、2

間書店刊)は、ごみ処分
場問題をめぐる殺人事件
を扱う。事件の背後に国
政選挙が絡む。

都会人が出すごみのた
め、小さなまちの森を壊
して処分場が造られてい
く。日本がごみ列島と化

大政党化の流れに埋没
し、自身を含め10人の候
補は全員落選した。

無限の経済成長など あるはずもない

90人の超党派の国会議
員でつくる「公共事業チ
ェック議員の会」の会長

し、人間の欲望の果てを
見るように、陰うつな気
持ちになった。

「人生は一期一会」と
政界引退を表明し、「推
理小説ならば、環境に関
心の低い人も手に取って
くれる」と筆を執った。

1期6年間務めた参院
議員の時から、その経験
を基に小説を書くこと考
えていた。13年ぶりに書
き下ろした長編の推理小
説「ごみを喰う男」(徳

02年に党名を「さきが
け」から「みどりの会議」
に変更し、その代表とし

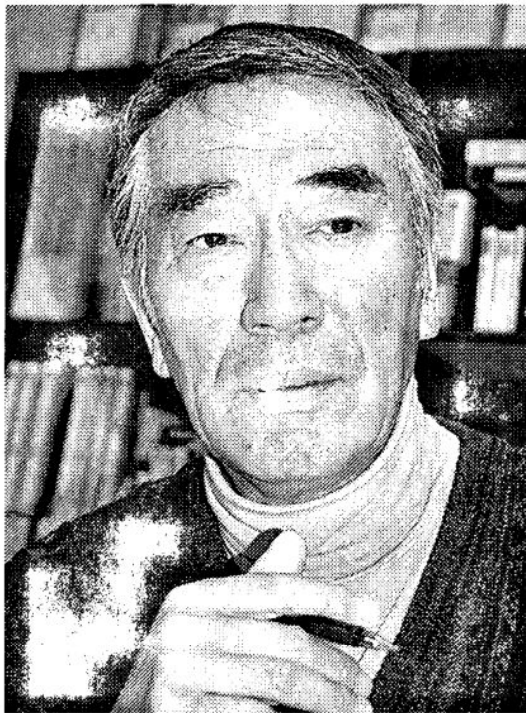
日本ペンクラブの環境委
員会副委員長として「環
境文学というジャンルを
作りたい」と意気込む。

現場などを歩いた。目を
奪われたのが、膨大な量

に変わり、その代表とし

それを具体化した今回

の作品には、ごみ処分場
させた。主人公の僧侶は、
無限の経済成長などあり
や里山、野鳥など環境キ
「小欲知足」という言葉
られている。
文と写真・田中泰義



東京都出身。東京外語大中退。72年
放映の「木枯し紋次郎」に主演。キャ
スターや脚本家としても活躍した。現
在は俳優の傍ら仏教研究に励む。66歳。